

## メキシコ政治情勢（２月）

### 〔概要〕

#### 【内政】

- ２日、「エル・フィナンシエロ」紙は大統領支持率等に関する世論調査結果を発表。ロペス・オブラドール大統領の支持率は、前月に比して１％低下。
- ４日、ジャーナリストの監禁及び拷問の疑いで捜索されていた元プエブラ州知事が逮捕。
- １６日、６０歳以上の高齢者への抗新型コロナウイルス・ワクチン接種が開始。
- １７日、連邦選挙裁判所は、国家選挙機関（INE）が講じた大統領早朝記者会見の実施制約に関する措置を無効と判断。
- ２３日、「ロ」大統領は、６月６日の選挙における不干渉を呼びかけ。

#### 【外交】

- ２日、中国・ラ米カリブ共同体（CELAC）デジタル技術協力会合が開催。
- ３日、MIKTA（メキシコ、インドネシア、韓国、トルコ、オーストラリア）外相会合が開催。
- ４日、新型コロナウイルス感染症に関するCELAC閣僚会合が開催。
- １４日、インドからAstraZeneca社製ワクチン８７万ドースが到着。
- １７日、エブラル外相が国連安保理においてワクチンの分配が不公平と発言。
- １８日、エブラル外相がラブロフ・ロシア外相と会談。
- ２０日、中国SinoVac社製ワクチン２０万ドースが到着。
- ２２日～２４日、アルゼンチンのフェルナンデス大統領が訪墨。
- ２３日、ロシア製ワクチン「スプートニクV」２０万ドースが到着。
- ２６日、エブラル外相、クルティエル経済相がそれぞれプリンケン米国国務長官と会談。

#### 【内政】

##### １ 大統領支持率等に関するエル・フィナンシエロ世論調査

２日付当地エル・フィナンシエロ紙は、大統領支持率、新型コロナウイルス感染症対策他に関する世論調査結果を発表した。

（１月１５～１６日及び２９～３０日に有権者各５００名を対象に電話調査形式で実施。誤差±３．１％。※を付した質問は、１５～１６日に実施。今次調査において、ロペス・オブラドール大統領の支持率は前月比１％低下。）

（１）ロペス・オブラドール政権の以下の事項への取組をどのように評価するか。

ア ワクチンの購入

- ・ 高評価：３９％
- ・ 低評価：３６％

イ ワクチンの管理

- ・高評価：37%
- ・低評価：37%

(2) メキシコにおける抗新型コロナウイルス・ワクチンの供給は、適切か、不十分か。

- ・適切：21%
- ・不十分：77%

(3) 「ロ」政権の以下の事項への取組を、どのように評価するか。

ア 保健分野

- ・高評価：34% (前回 (客年12月、以下同じ) 30%)
- ・低評価：39% (前回39%)

イ 経済分野

- ・高評価：28% (前回23%)
- ・低評価：45% (前回47%)

(4) 総じて、「ロ」大統領のメキシコ大統領としての取組を支持するか。

- ・支持する：61% (前回62%)
- ・支持しない：36% (前回34%)

(5) 総じて、メキシコは良い道を辿っていると思うか、悪い道を辿っていると思うか。

- ・良い道を辿っている：26% (前回28%)
- ・悪い道を辿っている：43% (前回34%)

(6) 「ロ」大統領が新型コロナウイルスに感染したことを知っていたか。

- ・知っていた：83%
- ・知らなかった：17%

(7) 大統領が感染したことをどの程度心配しているか。

- ・大変心配している：31%
- ・ある程度心配している：32%
- ・ほとんど心配していない：25%
- ・全く心配していない：12%

(8) 大統領の療養中、政府は適切に機能していると思うか。

- ・思う：51%
- ・思わない：42%

(9) 政府は大統領の健康状態について公表すべきか。

- ・大統領の健康状態について、国民に情報を更新して伝えるべき：69%
- ・大統領のプライバシーを尊重し、詳細な情報公開は控えるべき：26%

(10) メキシコが現在抱える最重要課題はどれか。

- ・新型コロナウイルス、保健：42% (前回34%)
- ・治安情勢：28% (前回24%)

- ・経済、失業：15%（前回26%）
- (11) 次のいずれがより重要と考えるか。
  - ・政府を監視する規制組織を維持すること：50%  
（前回（客年6月、以下同じ）61%）
  - ・規制組織を撤廃することで公的予算を節減すること：35%（前回34%）
- (12) 独立規制組織の中には、国家透明性・情報アクセス機構（INAI）が含まれる。  
独立規制組織を撤廃することに賛成か、反対か（※）。
  - ・賛成：37%
  - ・反対：46%
- (13) 連邦政府がチアパス州パレンケの野球スタジアム修繕に予算を割り当てることに賛成か、反対か（※）。
  - ・賛成：32%
  - ・反対：62%

## 2 ジャーナリストの監禁及び拷問の疑いで捜索されていた元プエブラ州知事が逮捕

4日、連邦検察総局は、監禁及び拷問の疑いで捜索されていたマリオ・マリン元プエブラ州知事をゲレロ州アカプルコ市内で逮捕した。マリン元知事は、2005年にジャーナリストのリディア・カチョ女史（注：2005年に、複数の有力企業家等が参加していた児童買春網の存在を暴く書物を出版していた）を不当に拘束し、監禁及び拷問した容疑にかけられている。

## 3 政府、独立達成200周年記念事業の概要を発表

5日、エブラル外相他は、大統領定例早朝記者会見において、メキシコ連邦政府が本年に計画しているメキシコ独立達成200周年（及びスペインによるアステカ王国征服500周年、テノチティラン建設700周年）の記念事業について発表した。15の主要事業内訳は次のとおり。

- (1) 2月14日：ビセンテ・ゲレロ没後190周年（於：オアハカ州）  
（記念ロッタリーの発行等）
- (2) 2月24日：イグアラ綱領公布200周年／国旗の日（於：ゲレロ州）  
（記念展示、叙勲等）
- (3) 3月25日：チャカン・プトゥン勝利の日（於：カンペチェ州）  
（児童絵画展、講演会等）
- (4) 5月 3日：カースト戦争終結／マヤ族侵害に対する謝罪（於：キンタナ・ロー州）
- (5) 5月13日：メキシコ市建設700周年（於：メキシコ市）
- (6) 5月17日：当地中国人コミュニティ侵害に対する謝罪（於：コアウイラ州）※
- (7) 6月19日：ラモン・ロペス・ベラルデ没後100周年（於：サカテカス州）

- (8) 7月24日：シモン・ボリバル生誕（於：メキシコ市）
- (9) 8月13日：テノチティラン陥落500周年（於：メキシコ市）
- (10) 8月24日：コルドバ条約署名200周年（於：ベラクルス州）
- (11) 9月15日：ドローレスの叫び（於：メキシコ市）
- (12) 9月16日：独立記念日軍事パレード（於：メキシコ市）
- (13) 9月27日：メキシコ独立200周年（於：メキシコ市）  
（音楽、食文化、歴史他に係る文学のコンクール等）
- (14) 9月28日：ヤキ族侵害に対する謝罪（於：ソノラ州）
- (15) 9月30日：ホセ・マリア・モレロス生誕（於：ミチョアカン州）

#### 4 60歳以上の高齢者へのワクチン接種が開始

16日、全国144の自治体において、60歳以上の高齢者への抗新型コロナウイルス・ワクチンの接種が開始された。初日だけで8万7,472名に、2回接種の英 AstraZeneca 社製ワクチンの1回目が接種された（注：3月10日現在、計310万868名（医療従事者80万7,341名、教員1万7,463名、高齢者167万263名）に米 Pfizer 社製、英 AstraZeneca 社製、中 SinoVac 社製、及び露 SputnikV ワクチンの1回目を接種済、うち60万5,801名が2回目（Pfizer 社製のみ）を接種済。）。

#### 5 連邦選挙裁判所、大統領記者会見に係る I N E の措置を無効と判断

17日、連邦選挙裁判所は、国家選挙機関（I N E）が講じた大統領早朝記者会見の実施制約に関する措置を無効と判断した。

（注：1月15日、I N E 評議会は、憲法第41条3項D号に照らし、I N E には選挙に向けたプロパガンダを阻止する権限があると主張。早朝記者会見においてロペス・オブラドール大統領が政党内部の事情、選挙に向けた世論調査結果、及び選挙一般について発言することを禁止する措置を発表していた。）

上記を受け、連邦選挙裁判所は、数週間以内に、大統領早朝記者会見での発言に関し更なる調査を行い、大統領の発言が選挙に向けたプロパガンダに相当するか否かを判断する。

（注：I N E が発表した方針が無効とされたのみで、今後選挙裁判所が大統領記者会見等での発言に関し何らかの方針を提示、または制約等を命じる可能性は排除されない。）

#### 6 ロペス・オブラドール大統領が、6月の選挙への不干渉を呼びかけ

23日、ロペス・オブラドール大統領は「民主主義のための協約」と題したイニシアティブを発表。現職州知事が6月6日の選挙（注：連邦下院議員選挙、15州知事選挙、多数自治体の首長及び地方議会選挙が同日に行われる）における干渉を行わないよう呼びかけ、「ロ」大統領自身も、国民主権及び民主主義を尊重し、諸選挙に干渉しないと述べた。

## 7 政党別支持率等に関するエル・フィナンシエロ世論調査

23日付当地エル・フィナンシエロ紙は、6月の連邦下院議員選挙における投票意思他に関する世論調査結果を発表した。

(2月16～21日に有権者1,530名を対象に電話調査形式で実施。誤差±2.86%)

(1) 連邦下院議員選挙で連合候補者が立てられる選挙区について、与党連合と野党連合のいずれを支持するか。

- ・与党連合 (国家再生運動 (MORENA)、労働党 (PT)、緑の党 (PVEM)) : 43%
- ・野党連合 (国民行動党 (PAN)、制度的革命党 (PRI)、民主革命党 (PRD)) : 29%

(2) 本日が連邦下院議員選挙投票日であった場合、どの政党に投票するか。

- ・MORENA : 34%  
(2019年2月時点 : 52%、20年11月 (前回調査) 時点 : 32%)
- ・PAN : 12% (2019年2月時点 : 8%、20年11月時点 : 18%)
- ・PRI : 10% (2019年2月時点 : 8%、20年11月時点 : 16%)
- ・その他主な政党 : PVEM 6%、PRD 4%、PT (労働党) 4%、MC (市民運動) 4%
- ・支持政党なし : 23% (2019年2月時点 : 13%、20年11月時点 : 17%)

## 【外交】

### 1 中国・ラ米カリブ共同体 (CELAC) デジタル技術協力会合

2日、中国・CELAC新型コロナウイルス感染症対策デジタル技術協力会合がオンライン開催され、アセベド・メキシコ経済省次官 (メキシコは現在CELAC議長国。) 及び王・中国産業・情報技術部副部長が共同議長を務めた。同会合では、デジタル技術分野での協力の推進を目標に掲げ、最新のデジタル技術、同技術のパンデミック対策への適用、及び経済回復等がとり上げられた。

### 2 MIKTA (メキシコ、インドネシア、韓国、トルコ、オーストラリア) 外相会合

3日、第18回MIKTA外相会合がオンライン形式で開催され、メキシコからはモレノ筆頭外務次官が出席した。同会合では、MIKTAの直近12か月における活動が振り返られ、パンデミックに対する国際協力の促進及び世界的な保健衛生構造の強化に焦点を当てた取組が強調され、MIKTA 5カ国による多国間主義、及び持続的で包括的な回復の促進に係る共通決定に対するコミットメントが再確認された。また、5カ国は公平で入手可能な抗新型コロナウイルス・ワクチンへのアクセス確保への取組を強化することで一致した。

### 3 新型コロナウイルス感染症に関するCELAC閣僚会合

4日、ラ米カリブ地域における感染症対策への公平なアクセスの促進をテーマとしたCELAC閣僚会合がオンライン開催された。CELAC議長国であるメキシコ（エブラル外相）が議長を務め、世界保健機関（WHO）の事務局長、及び汎米保健機構（PAHO）局長等が出席した。同会合では、民間部門の投資を含め、新型コロナウイルス感染症対策、世界経済回復のための資金調達的重要性等に関し話し合われた。

#### 4 インドからAstraZeneca社製ワクチン第一便が到着

14日、インドのSerum研究所で生産された、英AstraZeneca社製ワクチン87万ドースが到着した。右到着ドースは、墨政府がメキシコのBirmex社及びSerum研究所を通じて契約した203万ドース（101.5万人分）の一部である（注：同ワクチンは、16日に開始された高齢者向け接種で使用されている）。

#### 5 エブラル外相、国連安保理においてワクチンの分配が不公平と発言

17日、エブラル外相は、国連安全保障理事会の会合で、抗新型コロナウイルス・ワクチンへの各国のアクセスに平等性、公正性の不足が見られる世界の現状を批判した。同外相は、COVAXファシリティーによるワクチンの分配を加速する必要がある、世界の10カ国が全ワクチンの4分の3を有する現在の寡占状況を変えるべきと述べた。また、CELAC議長国として、パンデミックに立ち向かうための多国間主義の強化を呼びかけるラ米カリブ諸国の意見を表明した。

また、19日には、「ロ」大統領が国内（地方出張先）の記者会見において、墨政府が国際社会に対し医薬品、ワクチンへの世界各国による公平なアクセスを保証すべきと主張してきた点を改めて強調しつつ、少数国がワクチンを寡占する一方で全くアクセスができていない国が多い点は大変遺憾との考えを述べた。

#### 6 墨露外相電話会談

18日、エブラル外相は、ラブロフ・ロシア外相との間で電話会談を行った。両者は、二国間の協力、特にロシアからメキシコへのスプートニクVワクチンの供給に関し協議した。

#### 7 中国SinoVac社製ワクチン第一便が到着

20日、中国SinoVac社製ワクチンの第一便20万ドースが到着した。右到着ドースは、墨政府が同社と契約した1,000万ドース（500万人分）（注：3月9日、エブラル外相は、同契約内容は計2,000万ドースに拡大されたと発表）の一部である。デルガド外務次官（多国間問題・人権担当）は、この到着に際し、メキシコは中国の2社（注：SinoVac社及びCanSino Biologics社）からワクチンを調達する唯一の国であると発信した。

#### 8 アルゼンチンのフェルナンデス大統領が訪墨

22～24日、フェルナンデス・アルゼンチン大統領が、ロペス・オブラドール大統領の招待を受けメキシコを公式訪問した。24日には墨亜首脳会談が行われ、両国間の戦略的パートナーシップ、新型コロナウイルス感染症対策等における協力等について議論された。また、首脳会談に先立ち、23日には墨亜外務省代表団会合が行われ、両国間の戦略的パートナーシップ協定の確認、二国間協力に係るロードマップへの署名等が行われた他、22日には「エ」外相が「フ」大統領をメキシコ州のLiomont 社工場（注：同工場で、アルゼンチンからメキシコに発送された AstraZeneca 社製ワクチンの活性物質が完成形にされている）の視察に案内した。また、24日、フェルナンデス大統領は、特別来賓者として「イグアラ綱領の公布200周年及び国旗の日」の記念式典に出席した（メキシコ独立達成の記念周年の祝賀式典に参加する最初の外国国家元首となった）。

#### 9 ロシア製ワクチン「スプートニクV」第一便が到着

23日、ロシア製ワクチン「スプートニクV」の第一便20万ドースが到着した。右到着ドースは、墨露政府が契約した2,400万ドース（1,200万人分）の一部である。エブラル外相は、右到着に関し、1月25日に行われた墨露首脳会談の成果である点を強調し、駐墨ロシア大使によるワクチン輸送に係る取組に謝意を表した。

#### 10 中国・ラ米カリブ共同体（CELAC）農相会合

24日、第2回中国・CELAC中国農業大臣会合がオンライン開催され、ビジャロボス墨農業・農村開発相及び唐（Tang Renjian）中国農業農村部長が共同議長を務め、屈・国連食糧農業機関（FAO）事務局長、バルセナ国連ラ米カリブ経済委員会（ECLAC/CEPAL）事務局長、バルデラマ墨CELACコーディネーター（外務省米州地域機構・メカニズム局長）等も参加した。同会合では、農業科学技術・人材育成の推進並びに新型コロナウイルスのパンデミックに引き起こされた経済危機後における農業部門セクターの課題及び機会、ラ米カリブ諸国の農業生産性における地域の資源を活用するための方策等に関し議論された。

#### 11 エブラル外相及びクルティエル経済相のブリンケン米国务長官との会談

26日、エブラル外相及びクルティエル経済相がそれぞれブリンケン米国务長官とオンラインで会談を行った。外相会談では、「エ」外相は米国新政権の移民政策を評価し、地域内の移民発生の構造的原因に対処することを目的とする開発協力、治安、エネルギー、気候変動等につき協議された。「ク」経済相とブリンケン国务長官との会談では、貿易、USMCAの実施、北米地域の生産的統合の深化及び競争力の強化等について協議された。

（了）